

平成29年度 愛知県中学校(U-13)サッカー選手権大会 名古屋地区予選 審判割り当て

- ※ 審判をする上で以下のことに注意してください。
- ・審判を割り当てられているチームで主審(1名)・副審(2名)を担当すること。主審は必ず有資格者(中学生不可)が担当すること。
 - ・副審は選手可(ルールに詳しいもの、有資格者が望ましい。準決勝以上は選手不可、有資格者のみ)
 - ・主審・副審の割り当ては審判担当チーム同士で事前に話し合っておくこと。
 - ・会場担当チームは第4の審判員を担当するため、会場担当チームと対戦するチームは主審を担当すること。
 - ・主審は審判服を着用すること。(副審もできる限り審判服を着用すること)

12月10日(日)中川学体(B)、平田学体(C)、日比野(D)、大高(E)、高針台(H)、名古屋(I)、港明(K)、志賀(O)、山田(P)、原(Q)、		
12月16日(土)天白学体(A)、大高(E)、大森(F)、南陽(G)、当知(J)、楠(L)、牧の池(M)		
12月17日(日)中川学体(B)、平田学体(C)、日比野(D)、大森(F)、南陽(G)、高針台(H)		
1月 7日(日)天白学体(A)、中川学体(B)、日比野(D)、大高(E)		
	第1試合	第2試合
審判	第2試合のチーム	第1試合のチーム

12月10日(土)守山東(N)、猪高(R)			
12月17日(日)天白学体(A)			
	第1試合	第2試合	第3試合
審判	第3試合のチーム	第1試合のチーム	第2試合のチーム

☆ 天白学校体育センター(A)、中川学校体育センター(B)、平田学校体育センター(C)は②の10:30が第1試合です。また、12月10日(日)の名古屋中学校会場(I)は第1試合ア11:00、第2試合イ12:30になります。試合開始時間が異なりますので、注意してください。

1月13日(土) 準々決勝(副審は選手不可、有資格者のみ) 口論義運動公園サッカー場							
	主審	第1副審	第2副審		主審	第1副審	第2副審
①10:00	今池	第2試合のチーム	第2試合のチーム	③12:40	御幸山	第4試合のチーム	第4試合のチーム
②11:20	東星	第1試合のチーム	第1試合のチーム	④14:00	南陽	第3試合のチーム	第3試合のチーム

1月14日(日) 準決勝・決勝 港サッカー場				
	主審	副審1	副審2	第4審
準決勝① 10:00	御幸山	鎌倉台	桜丘	港北
準決勝② 11:30	大高	八王子	千鳥丘	楠
決勝 14:30	守山東	原	志賀	御幸山

会場使用について(総会資料より)

- ベンチ及びその周辺には、監督・コーチ・登録選手以外の者(登録外選手や保護者など)が入らないように、チームで徹底してください。
- ゴミは各チームで必ず持ち帰り、監督責任者で更衣場所の点検を行ってください。(会場付近についても同様)
- スパイクなどについた土や泥は必ずグラウンドで落とさせ、更衣場所を汚さないようにしてください。やむを得ず汚れた場合には、掃除をして帰るようにしてください。
- 器物破損が生じた場合は、必ず会場責任者に報告し、指示に従ってください。
- 会場への問い合わせはしないでください。また、保護者の車の乗り入れ、会場付近の路上駐車はやめてください。各会場への自家用車の乗り入れには、指定駐車券(監督用)の提示が必要になります。
- 学校・学校体育センター敷地内は禁煙です。また、会場周辺で喫煙の際も吸い殻の始末をしてください。
- 学校体育センターは9時以前に集合させないでください。また、周辺の公園で集合したり、アップ等の活動をしたりしないでください。

審判について

レフェリーは、ルールが尊重され、試合に関わる全員がサッカーを楽しめるように、選手がプレーに集中できる環境作りを助けるための存在です。安全と公平性が保障された試合となるように、ゲームコントロールに励んでください。

(1) 競技規則(ルールブック)をよく読みましょう。

昨年度、競技規則が大幅に改訂されました。試合中に気になったことや疑問に思ったことなど、ぜひ競技規則で確認しましょう。競技規則で特にチームに指導していただきたいこと、レフェリーとして特に留意して、適用ミスのないようにしていただきたいことは以下になります。

- リスタート
 - キックでプレーを開始・再開する場合は、ボールを(静止後に)明らかに動かす。
 - キックオフはどの方向にボールをけても良い。また、キックオフを行う競技者を除いて、すべての競技者はフィールドの自分たちのハーフ内にいなければならない。
 - オフサイド
 - 反則が起きた場所からプレーを再開する。(副審は、フラッグアップするまで、ボールを追うことを止めない意識に改める必要がある)
 - 主審が再開場所を決定する。副審は、主審との確認がとれた後、すぐにオフサイドラインにポジションをとる。
 - ペナルティキックとPK方式
 - キックフェイントは最も罰すべき行為である。(警告→相手の間接FK)
 - ゴールキーパーがキック前に前方に飛び出したことによりゴールを阻止した場合、警告となる。(PK方式中に2度繰り返して退場になる場合もある)
 - PK方式では、主審のコイントスにより、キックするゴールを決める。(PK方式前に2度コイントスをするようになる)
 - PK方式中でも両チームの競技者の数は同数にする。(キッカーを外れた競技者はベンチに退く)
 - 競技者の用具
 - 試合中に用具を交換したり、修正したりするためにフィールドを出た後、主審の承認を得れば、インプレー中でもプレーに復帰することが可能である。
 - (2) 起きた現象(ファウル)をよく見ましょう。
 - レフェリーとして、争点がよく見えるポジションに立ちましょう。(争点=選手同士が接触する点が見える位置に角度を合わせるために、サイドステップなどを使いましょう)
 - 感覚的に決めつけずに、起きた現象(ファウル)をよく見て、急がずに判定しましょう。
 - (3) 戦える(タフな)選手を育てましょう。
 - プレーオンを活用し、手や腕を不正使用した些細なファウルを受けても、もう1プレーががんばることができる、たくましい選手を育てましょう。
 - 激しくタフなプレーは認め、シャツを引っ張る、相手の進行を妨げるために押すなどの些細でも悪意あるプレーには厳しく対処しましょう。正しいチャージでの当たり負けをファウルとしない。ボールにチャレンジせず、相手のプレーを妨げようとするファウルを見逃さない。
- 試合前の審判員同士の打合せや、試合後の意見交換などを積極的に行い、指導者同士だけでなく、選手や保護者ともルールの理解と共通認識をさらに深めていただきますよう、よろしくお願いたします。